

2010年(平成22年)2月19日 金曜日

グイ テア コン 台湾企業に酵素供給 バイオエタノール製造用

【岐阜】コンテイク・アイ(岐阜市、鈴木繁三社長、0588・294・8091)は3月に、台湾企業にバイオエタノール製造用酵素の供給を始める。同社の技術を用いて中国でバイオエタノールを製造する台湾企業に、まずバイオエタノール換算で日産100キログラムを供給、年末までには25キログラムを供給する。同社の技術が海外で実用化さ

れるのは初めて。酵素を供給するのは、台湾のヒートパイプ製造大手の業強。コンテイク・アイの技術を使ったバイオエタノール製造プラントを販売するマザーコスモ(滋賀県湖南市)が、1月末に台湾子会社を通じて、中国での製造と販売の権利を供与する契約を業強と結んだ。業強は3月中に中国で日産100キログラムの実証プ

ラントを稼働し、年内にも日産25キログラムの量産を始める予定。コンテイク・アイは酵素の販売で、日産25キログラムのプラント1基当たり年間約3500万円の売り上げを見込む。コンテイク・アイの技術は、乾燥芝や紙などのセルロースを原料に、原料1キログラムあたり450キログラムのバイオエタノールを製造する。中国政府は2020年までに国内のバイ

オエタノールの年間利用量を1000万キログラムに目標を掲げ、長期的には

セルロースを原料とする製造技術を育成する方針を打ち出している。業強は将来、中国で日産25キログラムのプラントを20基立ち上げる計画。コンテイク・アイは業強に酵素を販売し、海外向け売上高増を狙う。